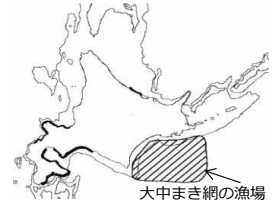


46.マイワシ

北海道周辺海域

主な漁業と漁期

まき網：8～10月
定置網：6～11月
さば・いわし棒受け網：5～9月
タモすくい：5～11月



生態

◆分布・回遊

分布・回遊は、発育初期の海流による輸送によって大きく2つの様式に分けられます（沿岸、沖合加入群）。沿岸加入群は、黒潮周辺でふ化後、沿岸へ輸送され、沿岸漁場でシラス期から漁獲されます。沖合加入群は、幼魚期に黒潮により東方へ輸送され、黒潮親潮移行域で成長して、亜寒帯域で夏季に索餌をし、秋冬季に南下して漁場に加入します。いずれの加入群になるかは、産卵場周辺の海況によると考えられています。

◆産卵期・産卵場

卵の出現状況から、産卵期は11～翌6月、盛期は2～4月とされています。産卵場は、資源水準によって変化し、1990年代以降は四国沖から関東近海の各地の黒潮内側域に形成されています。

◆成長・成熟

マイワシ太平洋系群

	体長(cm)	体重(g)
0歳	12	22.1
1歳	16	49.8
2歳	19	91.6
3歳	20	112.1
4歳	21	124.5
5歳	23	153.4

*) 2013～2015年の漁獲物平均値より
*) 年齢と体長の関係は、資源水準により大きく変化する
*) 加齢の基準日：1月1日 寿命は7歳程度

◎成熟年齢・体長

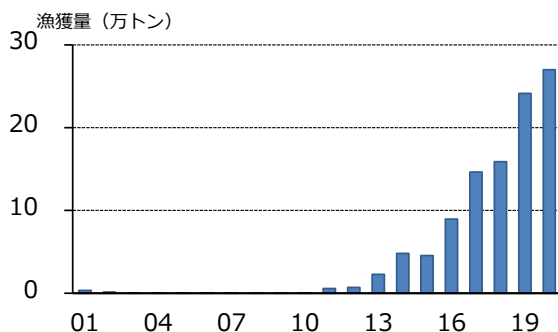
資源高水準期には、成長速度が低下して成熟が遅れましたが、近年では1歳で成熟が始まり、2歳ではほとんどの個体が成熟します。

資源評価

[評価年] 1月～12月

[来遊量の指標] 漁獲量

2020年度の漁獲量は27.0万トンで、前年と比べ増加しました。北海道周辺においては、2011年度に18年ぶりに道東海域にまき網漁場が形成され、それ以降、漁獲量は急激に増加しています。これは2010年以降、加入が良好であることなどから、資源全体の量が増加していることに起因します。2020年に漁獲の主体となった2018年級が引き続き3歳魚として来遊しますが、例年主体の2歳魚は少ないと考えられ、北海道への来遊は前年並みと考えられます。



2020年度
の水準



中水準

2021年度
の動向



横ばい

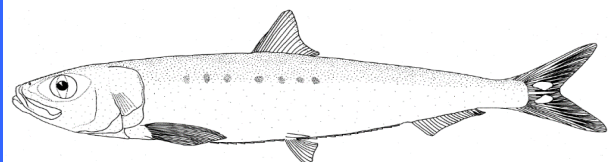
※都道府県も参加した国の資源評価結果を参考に本道周辺海域の資源状況を評価しています

資源の維持・増大のために！

資源管理の現状(主なもの)

○TAC(漁獲可能量)管理

2021年漁期の全国のTACは、太平洋系群で97.3万トン、対馬暖流系群で7.7万トンとなっており、北海道知事管理分は3.6万トンです。(2021年10月現在)



☆広域回遊魚種のため、資源管理には国・他県との連携が必要です。

問い合わせ先

北海道水産林務部水産局漁業管理課資源管理係
北海道立総合研究機構 釧路水産試験場調査研究部

電話 011-204-5477
電話 0154-23-6222